

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p>学 習 指 導</p>	<p>中長期重点取組の1 総合学科の特性を生かしたきめ細かい学習指導を行い、学習習慣の確立と学力の向上に向けて取り組めます。</p> <p>(1) 学習習慣の確立と学習意欲の向上を図る。 ・授業規律の確立と定期考査等にむけての計画的指導 ・提出物の期限厳守の徹底などにより家庭学習の習慣化を図る。 ・課外授業、補習と面談の充実、模試活用。</p> <p>(2) 「産業社会と人間」「IVYタイム」におけるキャリア教育を通じた進路希望の実現</p> <p>(3) 検定や資格取得の奨励を図る。</p> <p>(4) 教員の資質向上と授業内容の改善を図る。 ・教材開発や教員間の授業研究の充実</p> <p>(5) 進路情報の提供。生徒・保護者との連携。</p> <p>(6) 進学指導体制を充実し、国公立大学受験のべ20人以上、合格10名以上を目指す。</p> <p>(7) 学校推薦就職内定率100%を目指す。</p> <p>(8) 学習の場として図書館の有効利用を図る。 年間貸出数(5000冊以上) ・調べ学習の場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律はほぼ確立できている。 ・新学習指導要領の実施に伴い、シラバス、進路選択のためのブロック表を見直した。計画的な学習指導はほぼ達成できた。 ・家庭学習の習慣化のため、各教科の宿題・提出物の徹底を図った。全体には不十分。 ・学習習慣の定着、計画的な学習習慣の確立のため、今年度から1年次で6月に実力テストを実施した。 ・1年生は、11月から特進塾を開講。3年次は12月からセンター対策講座を実施。 ・資格取得合格者率(58.9%) ・授業公開週間の保護者の参加が少ない。教員間の授業公開2回実施。 ・進路ガイダンス、分野別説明会、進路希望別保護者会(3年3回、2年2回)等実施。 ・大学進学98名(国公立受験5名)短大18名、高等看護4名、専門学校等77名。センター試験受験者77名(昨年68名) ・学校推薦就職希望89名(内定85名、受験待機4名) ・授業での図書館利用定着。利用者は増加。貸出冊数は減少。利用マナーも向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と家庭学習、特に学習内容の定着が課題。学力差が大きく、基礎学力の定着していない生徒への支援が必要。 ・IVYタイムでは、研究成果のポスター発表をさせ、プレゼンテーション力の育成に努めた。 ・IVYタイム(2年次)の単位が減ったことにより、進路選択への影響が懸念される。 ・部活動と学習の両立を目指させる指導がさらに必要。 ・進路指導部を中心とした組織的な進学指導体制を構築することができた。さらに年次・教科と連携し、3年間継続した進学体制を充実させ、実績をあげていくことが必要。 ・学校推薦就職1次合格者の割合が向上。2年次からの就職対策、面接指導、希望者別のガイダンス等による成果。 ・生徒の進路希望や学力に合わせた積極的な各取り組みを学校全体として徹底する必要がある。 ・授業での図書館の利用回数は増加し、授業後に図書館で読書、学習する姿がよく見受けられた。情報機器普及による読書の質の変化も考えられる。図書館利用の活性化に向け更なる取組が必要。

<p>生徒指導</p>	<p>中長期重点取組の2 基本的な生活習慣や規範意識の確立を図ります。 (1) 全職員で基本的な生活習慣の指導を行う。 ・ 服装頭髪指導・昇降口指導・校門指導・登校指導・登下校自転車安全指導・年次連携 (2) 年3回の人権学習を通じて人権意識を高め、自主自律の精神を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校集会での講話、朝の登校指導、学年と連携を継続して取り組んだ。 登校指導(生徒指導部は毎日、学年生指は週1回、全職員は月1回)、昇降口指導は年8回(1週間程度)、昼休みの校内巡視下校指導 年3回程度。 ・ 基本的な生活習慣についてはおおむね良好。服装・頭髪指導の違反は特定生徒に減少。今後も根気強く指導。 ・ 毎月頭髪服装指導・マナー等の全職員による指導を行った。職員の意識啓発を継続。 ・ 問題行動は減少し、謹慎指導を受ける生徒は少ないが、問題を抱えている生徒はなお多い。面談指導を充実する必要がある。 ・ 生徒指導部と学年主任との定期的な連絡会議で学校全体の生徒情報の把握ができた。 ・ 学校だけで対応が難しい事案については、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門家の活用を進め、必要に応じて関係者の会議を開いて対応。 ・ 人権問題を自分の問題としてとらえ、差別に負けない・差別を許さない生き方を考えるとともに自律し発信できる力を育てる。 人権学習(第2回は授業を公開) 1年 ネットいじめ、わが街再発見、いじめ問題 2年 女性差別、障がい者差別、人権講演 3年 統一応募用紙、部落差別、労働者の権利 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭髪服装指導とものを大切にする心の指導強める。落とし物は多く、指導方法等課題も残る。 ・ 挨拶については、自然に挨拶ができるところまでは至っていないが、雰囲気作りは徐々にできている。 ・ 交通安全指導は、全校集会での講話・朝の登校指導、警察との連携を継続する。登校時の送迎車については、保護者の理解と協力が課題。 ・ 学年主任と生徒指導主任との定期的な連絡会議は成果があった。引き続き、定期的な会議の開催、生徒指導委員会での情報共有や対策の検討などに取り組む。 ・ 謹慎後の事後指導を積極的に粘り強く行い、生徒の表情や行動・態度に効果が徐々に出ており、問題行動の再発防止に一定の効果が見られる。 ・ 生徒指導部・特別支援・教育相談との連携・協力を進めることができた。連携協力体制を強化することが必要。 学校だけで対応が難しい場合は専門家の活用を図る。 ・ 特別支援の必要な生徒への対応について教員研修が必要。 ・ 問題行動後の指導(生徒指導室での定期的な面談)に効果が出ている。 ・ 人権学習に生徒はよく取り組んでいる。 ・ 12月の人権週間に人権サークルたよりを発行。
-------------	---	--	---

<p>特 別 活 動</p>	<p>中長期重点取組の3 部活動・生徒会活動の一層の活性化、健康教育、心の教育の充実を図ります。 ・学校行事や部活動の活性化。環境美化の推進 ・保健だより、文化祭展示で啓発。 ・生徒の自主性・自治能力向上。 ・保健部と教育相談が連携し心の相談に対応。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会、文化祭等を、計画通りに、例年より組織的、機能的に行うことができた。 ・生徒会を中心に率先した取り組み実施。例年より体育大会等での服装違反が減少。 ・保健通信を毎月発行。HPにも掲載。保護者への啓発を行った。保健環境委員が文化祭で積極的に取り組み展示発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の活性化を一層図ることが必要。特別活動部拡大部会を中心に検討を進める。 ・保健部、教育相談、生徒指導部が連携し、生徒の心の悩みの相談に対応できるよう、教員研修や専門家も入ったケース会議の開催を進める。 ・ゴミの分別できているがさらに啓蒙活動を充実。
<p>開 か れ た 学 校 づ く り</p>	<p>中長期重点取組の4 保護者や地域との信頼関係の構築を図り、開かれた学校を目指します。 (1)保護者・地域へ情報発信を積極的に行う。 ・学校公開、HPの充実 ・メール配信保護者登録率の向上 (2)地域貢献・地域開放の推進を図る。 ・公開講座『学びのプラザ』の充実。 (3)セキュリティと情報管理の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生対象学校公開夏と秋実施 夏为学校説明会・生徒(973名)・保護者(182名)計1155名。昨年度より255名増加。 秋为学校説明会・生徒384名・保護者52名計436名の参加。昨年度より69名増加。参加者の満足度高い(夏季は90%以上) ・絆ネット登録率・保護者97%(昨年90%)、生徒45%(昨年36%)。 毎月学校行事連絡と緊急時の連絡実施。 ・HP更新34回(昨年12回)(2月12日現在) ・進路保護者説明会参加率(64.2%) ・地域開放講座『学びのプラザ』は「エクセル入門」「パートウチング」に加えて、新たに「篆刻」「和洋菓子」を開講。受講者は増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介パンフレット『IVY通信』を通して、本校の特徴や状況、前期選抜の実施方法など周知。 ・絆ネット(メール配信)で、緊急時の連絡体制整備。生徒の登録率の向上と定期的な更新が課題。 ・中学生への学校説明会は、夏季(1日2回実施)と秋(公開授業)の継続。 ・進路別・学年別に保護者説明会については、出席率も高く、今後も継続して実施。 ・地域開放講座は、地域への広報が課題。保護者へも広報して募集。 ・HPについては次年度総務部に移行し、情報発信機能をより充実させていきたい。 ・各学年毎の生徒全員による校外清掃を実施。
<p>学 校 経 営 品 質 等</p>	<p>中長期重点取組の5 学校組織の改善と組織力の向上を図ります。 (1)危機対応の強化と安心・安全な学校づくりを図る。 ・防災体制の強化 ・情報管理の強化 (2)働きやすい職場づくりを図る。 校内分掌等の連携と情報交換、情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の防災体制等を見直し、HRにて避難訓練及び防災教育年間2回実施。 ・校内備蓄(食糧・水)を整備した。 ・情報メディア校内研修会1回実施。 ・ネットワーク上の大きなトラブルはなく安定稼働。校務メニューに代わる新システム導入。新システムの不具合や従来の流れとの食い違いなどいくつかの問題点発生。 ・各種校内研修会とその他ミーティング実施。また、関係箇所の連携取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も防災体制の強化と各種訓練の取り組みが重要。生徒・職員の意識改革も不可欠。 ・校務に関する新システム導入による問題点の解決に向けた取組が必要。次年度教務部へ移行。 ・校内研修会への参加率の向上が課題。研修会の日程とテーマ設定難しくなっている。 ・保護者アンケート・生徒満足度調査・教職員満足度調査結果から課題の洗い出しと改善にむけた具体的な方策の検討。 ・会議資料の事前配布、会議時間の短縮さらに必要。

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・北勢地区唯一の総合学科高校として、総合学科の特色を生かし、多様な進路希望をもつ生徒に対して、進学・就職それぞれ多くの進路情報を伝え、多様な進路選択を可能にしている。 ・生徒及び保護者アンケートによると、本校の恵まれた施設・設備に最も魅力を感じており、続いて部活動・自由な雰囲気・資格取得となっている。 ・「学校へ行くのが楽しみ」「この学校へ来てよかった」「友人から良い刺激を受ける」と回答した生徒が8割を超えており、子ども同士の関係の良さ、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多いこと、授業規律があることが本校の魅力である。 ・校内における情報設備が整っており、ネットワークを利用した高度な学校運営が可能である。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科ゆえに生徒の学力層の幅が広い。この幅広い学力層にあわせた授業展開は難しく、学校全体として各学力層の効率的な引き上げができていない。また各学力層の力の引き上げに不可欠な家庭学習指導も改善策が打ち出せていない。 ・進学・就職ともに進路実現に向けて、個々の生徒の能力の引き上げが課題である。データに基づく学力の実態把握ができていない。学力の実態把握に基づく学力の上位層から下位層まで、それぞれに合わせた効果的な対策の検討が必要である。 ・新校務システムの情報ネットワークの維持・補修、改善が行いにくい状況をできるだけ早く改善する方向に持っていかなければならない。 ・保護者や地域に向けての情報発信が十分にできていない。学校の教育活動の理解や支援を得るためにも、積極的な発信が必要である。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞	3回
容 実 施 内 容	第1回(7月10日)・・学校の概要について、昨年度の評価委員会評価結果と今年度の学校経営の改革方針について、教職員との意見交換 第2回(11月8日)・・授業見学、学校経営の改革方針 今年度の重点取組の中間報告、保護者アンケート結果報告 第3回(1月21日)・・生徒・教職員アンケート調査結果報告、今年度の取組の成果と課題について、学校関係者評価委員による評価

(4)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律の徹底、職場でのセクハラはゼロを目指してほしい。 ・学力の実態把握を行い、どこまで上げていくのかという具体的な目標をもって対策をたて取り組むことが必要である。幅広い学力の生徒がいるのであれば、対象の絞り込みが必要である。 ・非正規雇用者が増えている実態を考えると、就職をきちんとさせることが大切である。欠席をしない、基本的な生活習慣を身につける、挨拶をするといった基本的なことを身につけさせることが大事である。 ・生徒が活躍できる場づくりを進めることが必要である。(学校説明会で生徒が活躍する場を作るなど) ・社会の中で失敗した時、自ら道を切り開いていける力の育成が何よりも必要。従って今後も学習活動と部活動の両立が大切。部活動では、生徒自身がゆとりを持って互いの活動をふりかえりながらともに高みを目指して自律していくことができる指導方法が望まれる。

(5)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

- ・進路指導部を中心とした組織的な進学指導体制を構築することができた。さらに年次・教科と連携し、3年間を見通した継続した進学体制を充実させ、実績をあげていくことが必要である。
- ・学習の場において、常に自己を見つめさせ、絶えず向上心の育成を図る。特に、学力の伸長を目指して、上位層・下位層の引き上げを重点的に行う。
また、家庭学習の強化など教職員間の情報共有を図り、一つ上を目指した生徒の進路希望実現に向けて授業改善に努める。
- ・分掌や年次間の連携をより密に行い、学校運営の円滑化を図る。学年主任と生徒指導部・管理職との情報交換のための会議を定期的に行う。
- ・処務規定や業務内容のマニュアルにもとづき、分掌内での連携やスムーズな引継ぎを行い、業務の効率化・質的に効果の高い運用ができるようする。
- ・学校のあらゆる教育活動に対して、保護者や地域からより一層の協力と支援が得られるよう、幅広い情報発信力の向上に努める。